

東京バッハ合唱団 月報

[第 540 号] 2007 年 6 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 Tel : 03-3290-5731 Fax : 03-3290-5732
E-mail : bachchortokyo@aol.com http : //www2.tky.3web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No.540

June 2007

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

東京バッハ合唱団の《マタイ受難曲》日本語演奏を聴いて

21 世紀の、日本のバッハに乾杯！

山田 実

風呂出で詩へ寝る月輝る粉健
とホテル会う末理事生む
ビルベと0点夫追い得る取るん健
貧無理死へ台ん入り人産む
台寝津会うベルピン出ん微出でる
バス出い詣で酒取れん下駄いと
あぁ冷麺支援ベル出ん齧うでる
暴大ん残ふてる風流げる場いと

Freude schöner Götterfunken,
Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken,
Himmlische dein Heiligtum!
Deine Zauber binden wieder,
Was die Mode streng geteilt;
Alle Menschen werden Brüder,
Wo dein sanfter Flügel weilt.

日本で年間を通じ、一番多く演奏される合唱曲はベートーヴェンの《第九》でしょう。昨年12月だけで何回演奏されたかご存じですか？（解答は文末）恐らくすべてドイツ語で歌われたと思いますが、上記はドイツ語を知らない合唱団員の暗譜を助けるために発案されたものです。演奏者も理解できない原語で歌うことにどんな意味があるのでしょうか？合唱団のメンバーがオーケストラのボーナス支払いに一役買っているとはいえ、シラーとベートーヴェンの悲しみに歪んだ顔が見えるような気がします。

《マタイ受難曲》もまた頻りに演奏される大曲ですが、今年5団体の公演を聴いた中で、東京バッハ合唱団を除くすべての団体が原語演奏でした。ドイツからの引っ越し来日公演、ドイツ人の指揮者によるもの、そして日本人の指揮者による演奏など多種多様で、練習を聴かせていただいた団体では、ドイツ人指揮者が長母音と短母音の区別、語尾の子音などを熱心に指導されたのですが、果たして合唱団員にどのくらい理解され、本番に生かされたかは疑問で、4時間を越す演奏は、寄席に連れて行かれた外国人の心境でした。あるコンサートの途中で、

隣席の外国人が演奏開始前に読んでいた本を突然出して読み始めたのにはびっくりしましたが、共感を覚えたことも事実です。ちなみに覗いて見ると、本は英語で書かれていました。

ニューヨークの楽譜出版社 G. SCHIRMER からは、英語のみのヴォーカル・スコアが出版されており、9年間の在米中《マタイ》の原語演奏は一度も耳にしたことがありませんでした。バーンスタインのニューヨーク・フィルのCDも英語で、指揮者自身、解説の中で「この曲は天啓である」と述べています。言い換えるならば、テキストの内容が聴衆に理解できなければ全く無意味だと言っているのです。

日本人には理解するのが難しいものを尊重する風潮があるようで、理解できる容易な日本語より、難しいドイツ語に挑戦する方が、歌い甲斐を感じているのではないのでしょうか。かつて日本で上演されていたオペラはすべて邦訳演奏でしたが、現在は原語で字幕つきがほとんどです。メトロポリタン歌劇場では、通常、各座席の背部の文字盤に英訳が表示されますが、大晦日恒例の《こうもり》だけは原語ではなく、聴衆が理解できる英語で上演されます。

最近、日本での《マタイ受難曲》の演奏は、字幕がつき、プログラムには邦訳が記載されているのですが、視覚に集中すると聴覚は疎かになりますし、歌とのタイミングがずれていたり、とても長時間集中して聴くのは困難でしょう。

もう一つ、演奏スタイルの問題があります。20世紀前半まで、演奏効果を重んじたロマン派的な演奏が行なわれてきましたが、現在では、音楽学の研究発展とともに、作曲家の意図した音の再現が主流を占めています。《マタイ受難曲》も、古楽器を用いて、当時のピッチ(A=115)での演奏も聞かれるようになりました。楽器はバッハの時代に使われたものが現存していますし、設計図どおり同じ材質を使用すれば昔の音がほぼ再現されるでしょう。しかし、声については、どのような音色で歌われていたか全く知りません。古楽器の音色に合わせて成人女性に当時の少年を模したノン・ヴィブラートの声で歌わせて

も現在の大ホールでは聞こえにくく、稚拙なものになってしまう危険があります。

さて、東京バッハ合唱団の第100回定期、創立45周年の記念公演は、本当に残念ながら、当日本番の時間帯はどうしても抜けられない所用があり、前日と当日午後のゲネプロを両方、聴かせていただきました。感動しました。バッハの意図していた、音楽で強調されたメッセージが直接胸に響き、2日間を全く飽きることなく、1曲々々、興奮に胸をときめかせて聞き入りました。とかく合唱の言葉はソロに較べて聞き取り難いものなのですが、メンバーの方々がほとんど暗譜し、顔を真っすぐ指揮者に向けて歌っておられ、アマチュア合唱団に有りがちな音質の乱れもなく、バッハの音楽に聞き入ることができ、至福の時を過ごしました。またエヴァンゲリストをはじめソロの方々のテキストも非常によく聞き取れ、指揮者のバッハにかけける指導力、情熱とスタミナに感動し、時の移るのを全く忘れてしまいました。

バッハがこの大曲を作曲した意図は、16世紀のマルティン・ルターの宗教改革以降の、会衆が理解し参加できる母語による礼拝を行うという主旨のもと、聖金曜日の午後、キリストが十字架上で苦しめられた時間に併行して、演奏することにあります。この創作の意義に思いを到らせば、演奏者、聴衆が理解できる言語により、石造りの教会ではなく、現在のコンサートホールの実情を勘案した演奏が最も相応しいと言えるのではないのでしょうか？

21世紀の、日本のバッハに乾杯！

答え：2006年12月に、日本で演奏された《第九》はN響の4回を含め98回です！

(やまだ・みのる・東京芸大音楽科卒，ニューヨーク市ユニオン神学校宗教音楽科修士，コロンビア大学大学院学芸博士～論文は歌手の発語法研究)

CDで日本語の演奏を聴いています

野村 誠治（釧路市在住）

『50曲選』のCDを聴いています。ドイツ語もまったく分からず、ただ聴いて楽しんでいるだけの者ですけれど、今回日本語で聞きまして、エッ、こんな風に歌っていたの！と、驚きと感動があります。それまでは、解説の中の台本の詩とその訳を目で追っても、どう歌っているのか分からなくなっていました。

音楽の専門的なことは分かりませんが、くりかえす言葉にも、単にくりかえすのでなく、音節ごとに分解して、

有機的に再構成するかのようにして、言葉がまたその意味も、きれいにつながるように考えられているのかなと感じました。訳詞には大変な苦勞と苦心、工夫があるのではと思われますし、歌うにしてもかなりの研鑽、努力が求められるのではとも思いました。

バッハに取り組むということは、それなりの覚悟と、バッハがそうであったように信念と不屈の精神がそこにあるのだなあと感じます。皆様の活躍と発展を祈っております。

ドイツ語原詞と日本語の双つながりの、ぜひいたくな、うれしい楽しみ方ができます。楽しみながら、大切に聞かせていただきます。ありがとうございました。

《マタイ受難曲》のCD、ありがとうございます。

日本語ですと、カンタータもそうですが、覆面がとれて素顔の人と親しく接しているようなそんな印象で、なつかしいようなうれしい気持ちになって聴いております。

透きとおるように澄んで響きわたるエヴァンジェリストが印象的でした。言葉がわからないときは、情感としてアリアが印象深いです。言葉がわかると言葉として直接的うったえの強いレチタティーヴォの印象が強くなるのかなと思いました。

声楽と管弦楽とが絡み合うような、編み物の2本のそれぞれの編み棒と毛糸を編み合わせ、絡み合わせていくかのようにして、音楽を編み込んでゆく、そんな不思議な魅力と美しさを感じて、それが好きなのですが、それがバッハの作曲の妙なのでしょう？

演奏曲目一覧を見まして、その大変さの程はわかりませんが、偉業に驚いています。後世にその貴重なものを記録（録音）として残して下さるようお願いしてやみません。録音に携わる方も、大変とは思いますが、CDとして手にすることができるようにし続けて下さるとありがたいです。《ヨハネ受難曲》《クリスマス・オラトリオ》《ミサ曲》なども日本語版CDとして得られたらと思っています。また、BWVのカンタータ番号の配列の意味が素人にはさっぱり分かりません。かえって（カール・リヒター版のように）教会暦順の方がよいのではと単純に思ってしまうのですが、如何でしょうか。

みなさまの健康と活躍をお祈りいたします。主宰者の大村恵美子様にも、また合唱団の方々にも感謝の意をお伝えくださいますよう。

CD《マタイ受難曲》日本語演奏・新盤



去る3月21日公演の会場ライブ録音が出来上がりました。

・頒価 3500円
(3枚組み・当日プログラムつき、送料こみ)

「出版協力募金」のゆくえ

大村 恵美子

前月(5月)号の月報を800部つくって、5月1日から数日の間に、団員、団友、後援会員、ダイレクトメール登録者(定演ご来聴者のうち送付を希望された方に、公演のつごご案内を差し上げています。現在320名ほど)などにお届けしました。第1面に、「創立45周年の決意『バッハ・カンタータ50曲選』負債残額、完済にご協力を」というお願いを載せたものです。

ところが、発送後数日には、もう、呼びかけを待ち構えていたかのように、10数人、約250万円が送られてきました。私自身、その反応の反射的な速さに、おどろきました。一面では、予感がしていなくもなかったのです。3月21日の《マタイ受難曲》演奏会以後、記念文集のための感想もたくさん集まりましたが、その他にも、今までお名前の登録もなかったような方々からも、一斉に、「素晴らしいお仕事を、お元気でいつまでも盛り上げていってください」というエールが飛んできたのです。それは《マタイ》に来聴された方々や、長年「月報」をお送りしている方々とどまらず、最近になって合唱団の存在を知ったというような、新しい支持者の方々からも、長文のおおまじのおことばを頂いたりしました。

「50曲選」出版の経費未払いにずっと頭を痛めていた私は、《マタイ》定演が終わったらすぐに何か対策を考えようとしていたところでしたので、合唱団の存続と事業の安定を切望して下さるこれらの方々に、思い切ってありのままを訴えようと決心したのです。

現在、まだ私の呼びかけが始まったばかりの時点で、今後のことを考えるのは早すぎるかもしれませんが、いったん今年(2007年=創立45周年)から5年間(2012年=創立50周年)と期間を告げた以上、そのまま変更せず、2012年12月号までの月報に、随時、応募して下さった方の人数(無記名)とその間の合計額、および累計額をご報告させていただくことにいたします。

5月は、開始以来1週間で、この計画(5年間で1000万円募金)の4分の1が届いたことになり、このまま調子よくゆくと、1年、2年後の早い時期に、予定額を達成してしまうこともあり得ます。もちろん、その逆に、途中でぶつりと続かなくなることも考えられますが、その場合は、ひきつづき期間内は希望を捨てずにお待ちするだけです。

募金が予定額に達した場合のことですが、それでも期間内はつづけて、予定額を上まわる皆様方のご好意を受けさせていただきます。いま、こうして苦労しているのも、資金もなしに大事業を始めたからなので、合唱団が存続するかぎり、カンタータ全曲出版(できれば録音CD発行も)をつづけてゆく計画ですから、いくらでも出

【出版協力募金】報告 2007年5月31日現在
ご応募: 41名(ご寄付、楽譜・CD購入など)
合計額: 2,713,000円
達成率: 27.1% 目標 1000万円

版のための資金は必要なのです。

この、カンタータ全曲の日本語楽譜を後世に残す事業は、私個人がいなくなっても、きっとどんな形かで社会に引き継がれてゆくにちがいません。そのための重要なドネーションなのだとして理解を鮮明にされて、お一人お一人のご都合に合ったご協力を、今後ともお願いいたします。もちろん、上記の負債を実際に完済できたあかつきには、ただちに皆様にご報告し、その後の入金は、赤字埋めから将来の出版事業資金へと変わることになります。そんなご報告のできる日がくるのを、私は楽天的ながら、確信して期待しています。FINE

ブライトコプフ版底本・大村恵美子訳詞

バッハ・カンタータ [日本語歌詞つき] 楽譜全集

第1回配本

カンタータ第65番《もろびとシバより来たり》



本体価格 1500円
ISBN4-925234-56-0
A4判, 本文28ページ(体裁は「50曲選」に準じる)

[用途] 顕現節用、1724年1月6日初演

[編成] 独唱T B、合唱、ホルン、リコーダー、オーボエダカッチャ、弦と通奏低音

[当合唱団での演奏予定] 第101回定期演奏会(本年11月17日、東銀座・中央会館ホール、T鳥海寮・B佐々木直樹・東京カンタータ室内Orch)

「バッハ・カンタータ50曲選」(上記全集の既刊分となります)

<全曲完結セット>

- ・楽譜全50冊セット:
頒価 66000円
- ・CD全20巻セット:
頒価 40000円

<各曲/各巻>

- ・楽譜各曲:
頒価 1200~2100円
- ・CD各巻: 頒価 2300円



頒価は、いずれも団関係者特別価格。郵便振替用紙を同封してお送りします。送料当方負担。他の楽譜・CDも同様。

6月からの行事ご案内

下線の行事は、後援会員・愛好家の方々の参加歓迎。

6月30日(土) 団員総会(15:30 - 17:30、桜新町練習場)
当合唱団は、7月が年度初めですので、毎年6月末に団員の総会を開いて、全員で年間の活動を相談します。ぜひご参加ください。

7月1日(日) 創立45周年記念懇親会

時間 17:00 - 19:00

会場 パーティーハウス Y's

(新宿西口・エステック情報ビル4F。JR新宿駅西口地下ロータリーから徒歩3分、新宿センタービルの向かい、工学院大学ビル隣。西新宿1-24-1、電話03-5322-3545)

会費 5000円(当日お納めください)

第100回記念定演《マイ受難曲》公演も成功裡に終え、後援会・団友・愛好家の方々ともども、今年は創立45周年を盛大にお祝いしたいと思います。大勢のみなさまのご参加をお待ちいたします。

6月23日までに、電話・FAX等で事務局宛て、お申し込みください。(詳細別紙)

7月28日(土) 特別演奏会(入場無料)

開演 18:00 - 19:30

会場 世田谷中央教会(田園都市線「桜新町」下車)

8月4日(土) 特別演奏会(入場無料)

開演 19:00 - 20:30

会場 野尻湖神山教会(長野県野尻湖畔、国際村)

<同一プログラム>

カンタータ第52番、第84番(いずれもソプラノ独唱カンタータ、終結コラールは合唱)

ヴァイオリンソナタ第6番ト長調BWV1019より

モテット第3番《イエス よろこび》

S: 光野孝子、Vn: 丹沢広樹、Pf: 若土規子

指揮: 大村恵美子 / 橋本眞行 (チラシ参照)

8月2日(木) - 5日(日) 野尻湖合宿(次号に詳報)

湖畔の宿で練習しながら、最終日のコンサートに臨みます。光野孝子先生の声楽指導が楽しみです。練習の合間に、散策・サイクリング・ボート・花火....

8月中の通常練習は夏季休暇(9月1日より再開)

11月17日(土) 第101回定期演奏会(中央会館ホール)

モテット第3番《イエス よろこび》

カンタータ第65番《もろびと シバより来たり》

モテット第1番《歌え 主に向かいて 新たな歌》

12月10日(月) クリスマス懇親会

柳元 宏史

連載: 全部おすすめ 50 曲選!! <その6>

カンタータ第76番《主の栄光を 天は語り》

この曲(初演1723年6月6日)は、バッハがライプツィヒで作曲した2部構成からなる大作の第2作で、三位一体節を迎えた2週目(三位一体節後第2主日)の礼拝で演奏された。この日の礼拝で朗読された聖書箇所は、「ルカによる福音書」14章15-24節。ここには、イエスが譬えを用いて話した内容が記されている。

ある主人が、宴会の用意ができたので、招いていた大勢の人に時刻になったことを知らせるために、僕(しもべ)を遣わす。しかし、あろうことか、みなそれぞれ自分の用事を申し立て、体よくこの招きを断わるのである。主人は怒り、この世で辛い思いをして生きている人々を、宴に連れてくるように僕に伝える。そして、あらかじめ招かれていた人々は誰も主人の食事を味わうことがない、と主人は告げる。

ここで、イエスが譬えて語った主人とは「神」のことである。その神の宴会とは、「神の国」を指す。そこに神は招いているのに、人々はもっともらしい理由をつけて、自分の都合を優先させ、宴会には出席しない。結局、神の国に招かれるのは、貧しいもの、体や足の不自由なもの、目の見えないものたちだったとイエスは語る。彼らは、偏見の中で生きることの困難さを経験し、神の招きを心待ちにしている。だから彼らは、自分の都合のために、簡単に神の招きをすっばかしたりはしない。神の言葉をストレートに受け止め、招きに喜んで従う。言い訳ばかりの私自身、冷や汗のでる内容である。

この物語の内容に直接触れているのは、第2曲レチタティーヴォ(テノール)、第3曲アリア(ソプラノ)と第4曲レチタティーヴォ(バス)である。2曲目のおわりで、神がいざ来たれ 愛の宴に と招く。その招きを伝える僕の声が、ヴァイオリンの美しく軽やかな調子にいざなわれ、ソプラノの清らかな温かい声で再現される。その招きを蹴散らすように、4曲目では 誰ぞ聞かん あだし神をば仰ぐ者らに とバスが凄みのある声で歌う。このあたりは実に妙なる演出で圧巻である。

神を讃える「頌栄」(第1曲:合唱)で始まり、聖書の語りと、イエスの愛に従って生きる「奨め」があり、最後に「神の祝福」(第14曲:コラール)といった構成は、さながら礼拝のようである。その整えられた内容と、今回の演奏者(下欄参照)の深い理解とに、二重の感動を覚える一曲である。

(やなぎもと・ひろし、団員:バス)

CDバッハ・カンタータ50曲選[第10巻]に収録。S名古屋木実、A佐々木まり子、T佐々木正利、B渡邊明、東京カンタータ室内管弦楽団、大村恵美子指揮/訳詞、1989年録音(第65回定演) 演奏楽譜:50曲選[24]